



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 44 No. 2
April 2019**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

- 「佐藤哲男記念賞」創設にあたって－感謝と責任と期待－ 15
- 社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い 16
- 日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第3報） 17
- 第22回日本毒性学会基礎教育講習会日程 21
- 第46回日本毒性学会学術年会のご案内（第5報） 22
- 第45回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について 26

その他のお知らせ

- 2019年度日本環境変異原学会公開シンポジウム 27
- 第59回日本臨床化学学会年次学術集会 27

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

ご挨拶

「佐藤哲男記念賞」創設にあたって
— 感謝と責任と期待 —

佐藤 哲男



長く生きてると予想だにしないことが起こるものである。

1月に熊谷理事長からご連絡があった。「昨日の理事会で国際化に貢献のあった会員を顕彰するため「佐藤哲男記念賞」が承認されました」。寝耳に水とは正にこのことである。

1995年にIUTOX Vice Presidentに選出されてから、役員任期後も含めて約20年間SOT, IUTOX, ASIATOX, EUROTOXなど多くの国際学会や国際会議に参加する機会があった。熊谷理事長によれば、「先生の学術的貢献に加えて、これまで長年にわたりJSOTの国際化に先鞭を付けて頂いた事に対する賞です」。とのことだった。

米国SOTでは高名な研究者の名前を冠した賞が多くあるが、日本ではその様な風習はなく、ごく限られたものだけである。JSOTの場合は、初代理事長だった田邊恒義先生のお名前を冠した「田邊賞」だけである。今回、自分の名前を冠した賞が創設さ

れたことは身に余る光栄であるが、同時にその責任の大きさを痛感している。

これまで世界各国で開催された国際学会、国際会議などにはJSOTの代表の先生方と一緒に参加し、時には白熱した議論の中でしゃべり過ぎだと注意される事もあった。これらの会議では多くのことを経験した。国際会議では日本流の「以心伝心」は通用しない。意見があるときは遠慮せずに発言するのが常識である。発言のない出席者は意見なしとして座長から声がかからない。日本と違い座長から意見を求められることは極めて少ない。

これに関連してグローバルに有名なジョークを一つ。

『国際会議での腕のいい司会者とは、「いかにしてインド人を黙らせて日本人にうまくしゃべらせる事が出来るか」だ。インド人は押しが強くて巻き舌の英語でしゃべりまくる。反対に、日本人は指名されないといつまでも発言しない。いかにして日本人に発言させるかが司会者の腕だ。』

閑話休題

生来好奇心旺盛な私にとって、会議終了後は長年切望していた史跡をめぐる絶好の機会だった。イスラエルやイギリスでの会議が終了した翌日、かねてから狙っていたエルサレムの郊外にあるキリスト誕生の地ベツレヘムを訪ねたことや、イギリスのストーンヘンジなどを一人旅した事も忘れられない。

1974年にSOTに入会してから今日まで約45年になる。この間、国際会議や国際学会、SOT年会などを通して世界中に多くの友人をもつことが出来た。また、予想もしない異文化と接することも出来た。欧米、中東、アフリカ、アジア、北欧の友人との出会いは私の生涯にとってかけがえのない宝である。

これから躍進する若い会員の皆さんにとっては、国際学会などで世界中の毒性学の研究者と知りあうことが国際化の第一歩である。欧米の参加者は日本人との対話を望んでいる。会場では遠慮せずに参加者に話しかけて欲しい。それが国際的つながりを広げる絶好のチャンスでもある。「actionがあればreactionが跳ね返ってくる。何も行動を起こさないと何も残らない」。JSOTの若い会員は国際化のために機会を見つけて是非actionを起こして欲しい。国際会議での議論の中で注意すべきことは、宗教と政治の話題は持ち込まないことである。

私にとって海外での国際会議は、同じ研究領域の友人と議論する場として生き甲斐でもあった。今回の賞の創設にあたり、もし私の国際会議への経験がJSOTの国際化の火付け役となったのであれば望外の喜びである。その間、海外での活動を積極的に支援して頂いたJSOTにはいくら感謝してもしきれない。

JSOTが創立されたときに入会し、その中で先輩会員各位や同僚から多くの事を学び、今日まで育てて頂いた。今後JSOTが国際化を促進するためには、現在学会を支えてくれている若い力が必要である。「佐藤哲男記念賞」がそれを推進する原動力の一つになれば、当事者としてはこれ以上の喜びはない。トキシコロジー研究に国境はない。JSOTはグローバルな躍動の中で発展すべきである。

JSOTの中には、これまで国際化に尽力された会員が少なくない。これからは、一人でも多くの受賞者に毎年授賞式でお会いして私から直接お祝いの言葉をかける事が出来る様健康管理に努めて参りたいと考えている。]

追記：ホームページ特別寄稿「学会運営における国際化の役割 - 内政と外交 -」もご一読下されれば幸いです。

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第4章に定められておりますように「社員総会」を、以下の要領で学術年会期間中に開催いたします。ご承知のとおり、本学会は2014年5月1日に一般社団法人となり、重要な案件は社員総会で決定されます。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。なお、本委任状回答システムへの入力のご案内は2019年4月以降にメール等にてご連絡させていただく予定です。

記

2019年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会
日 時：2019年6月27日（木）午後1時30分～同3時30分
場 所：第46回日本毒性学会学術年会 第1会場（アスティとくしま）
議 案：1. 2018年度事業報告および収支決算
2. 2019年度事業計画および収支予算
3. その他

以上

社員総会の決議には、定款第24条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の「過半数」を有する社員の出席が必要です。定足数に満たない場合は社員総会として成立しなくなり、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会に欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状の提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年4月
一般社団法人日本毒性学会
理事長 熊谷 嘉人

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第3報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会として、幅広い領域にまたがるトキシコロジーに関する基礎知識を体系的に集中学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての多領域にわたる知識をブラッシュアップしながら新たな技術、課題などをインプットする生涯教育講習会を開催いたします。

「第20回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーは、毒性学をより深く理解・学習する場として、必ずしも毒性学のみこだわらず、毒性学周辺領域でのトピックや臨床現場及び環境における課題などからテーマを選定し、通常の自らの研究や仕事領域からだけでは得られにくい話題をフォローし学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。

講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には6月中旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日時

2019年6月29日（土）

2. 会場

あわぎんホール 4F 大会議室

3. プログラム

- 1) SOT2019 報告：Continuing Education Course の話題をもとに

1-1 9：00～9：45

岸田 知行 先生（キッセイ薬品工業株式会社）
Role of Toxicokinetics in Human Health Safety Assessments

1-2 9：45～10：30

田村 明敏 先生（大日本住友製薬株式会社）
Conducting Systematic Review in Toxicology —Why, When, How?

（休憩 10：30～10：40）

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー：
“臓器間ネットワーク～内分泌系などを中心として”

2-1 10：40～11：30

片桐 秀樹 先生（東北大学）
「臓器間ネットワークによるエネルギー代謝調節機構（仮）」

2-2 11：30～12：20

大月 道夫 先生（大阪大学）
「薬剤による内分泌障害の現状と課題－免疫チェックポイント阻害薬を中心に－」

（昼休憩 12：20～13：30）

2-3 13：30～14：20

野見山 桂 先生（愛媛大学）
「野生動物における有機ハロゲン化合物の代謝・動態と甲状腺を中心とした内分泌（仮）」

2-4 14：20～15：20

村上 雄一 先生（田辺三菱製薬株式会社）
「非病理学者のための病理学講義：内分泌関連臓器（仮）」

4. 参加申込および参加費

1) 申込期間

2019年3月1日（金）～5月17日（金）

2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

登録後、5日以内に次項の要領で受講料を納入下さい。

3) 納入方法

ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：みずほ銀行

支店：麹町支店 (021)

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

*振込手数料をご負担ください。

*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名(会員の方は会員番号)、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

4) 参加費

会員	5,000 円
非会員	7,000 円
認定トキシコロジスト	3,000 円

当日申込

会員	7,000 円
非会員	10,000 円
認定トキシコロジスト	5,000 円

*受講料はお申込みから5日以内にお振込み下さい。

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*準備の都合上、できるだけ事前申込をお願いします。

*キャンセルに伴う返金に関しては、セミナー資料事前送付前に限り、対応します。事務局から資料送付後は納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。詳細は別途事務局までお問い合わせください。

5. 問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株) 毎日学術フォーラム内

TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555

E-mail: jsotq@jsot.jp

「第22回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的とし、トキシコロジー [第3版] (朝倉書店, 2018年3月刊) をベースとしたテキストを用いる3日間の集中講義です。また、10月の日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験を受験される方には、トキシコロジー全般にわたる理解を深め受験に備える貴重な機会です。3日間をかけて各専門分野の先生方に講義していただきます (21ページ参照)。

尚、本講習会を受講されますと認定試験受験資格のための評点40点が付与されます。また、認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象にもなります。

本年より講習会資料はダウンロード形式といたします。受講者の皆様には7月中旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日時

2019年8月5日(月)～7日(水)

2. 会場

星薬科大学 新星館 202/203

3. 募集人数

150名(先着順)

4. 申込

1) 申込期間

2019年6月3日(月)～7月5日(金)

*会場に余裕がある場合に限り当日参加を受け付けますが、できるだけ事前申込をお願いします。

2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

登録後、5日以内に次項の要領で受講料を納入下さい。

受講料入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送りします。

3) 納入方法

ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：みずほ銀行

支店：麹町支店 (021)

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

*振込手数料をご負担ください。

*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメール

で受講者氏名（会員の方は会員番号）、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

4) 受講料

一般会員	25,000 円
学生会員	5,000 円
非会員	30,000 円
学生非会員	8,000 円
認定トキシコロジスト	20,000 円（2～3日受講） 10,000 円（1日受講）

- * 交流会（1日開催）の費用は受講料に含まれます。
- * 領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。
- * キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内内に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。

5. その他

- * 昼食は各自ご用意下さい。講義室内での飲食は可能です。
- * 講習会場には電源のご用意がございませんので、講義中コンピューター類をご使用の場合は、各自でご対応をお願いいたします。
- * 受講修了者には受講証明書を発行します。また、学生受講者（大学院生を含む）は出欠を確認したうえで受講認定証を発行いたします。

【第22回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験】

我が国の安全性試験の科学水準及び信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。

日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. 日 時

2019年10月6日（日）

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス（予定）

3. 出願期間

2019年7月1日（月）～8月16日（金）（必着）

4. 出願書類

- 1) 願書と受験者確認票
- 2) 写真 2枚（縦3.5cm×横3cm）※6ヶ月以内（願書と受験者確認票の所定欄に貼付）
- 3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

- ・会員歴：出願時にJSOTの会員であること
- ・研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの（書留、信書便等）でお送り下さい。

出願書類フォームは、学会ホームページおよび次号 Vol. 44, No. 3（6月号）に掲載する予定です。

5. 受験料

30,000 円（下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい）
郵便振替口座番号：00150-9-426831
加入者名：一般社団法人日本毒性学会
（通信欄に会員番号を明記下さい）

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局
認定試験小委員会
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内
TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
E-mail: jsotq@jsot.jp

【認定トキシコロジスト資格の更新】

1999年、2004年、2009年、2014年に認定トキシコロジストに認定された方（認定トキシコロジスト No.149～170, 262～303, 416～457, 553～576）は2019年が資格更新の時期となります。更新手続きの詳細は、対象者宛に2019年7月頃に郵送いたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「日本毒性学会認定トキシコロジスト総会」

6月にアスティとくしまで開催予定の第46回日本毒性学会学術年会会期中に、認定トキシコロジストおよび名誉トキシコロジストを対象とした認定トキシコロジスト総会を企画しております。総会には多くの先生方が参加されますので、今後の毒性学の方向性、研究等様々な意見交換の場として有効利用していただければと考えております。先生方の積極的なご参加をお待ちしております。

1. 日 時

2019年6月26日(水)

19:00～21:00(18:30より受付開始)

※開始時刻が変更になりました。

2. 会 場

ザ・グランドパレス

3階 グランドルーム(予定)

<https://www.gphotel.jp/#access>

※学術年会会場よりマイクロバス2台で会場までご案内する予定です。(時刻等の詳細は次号 Vol. 44, No. 3(6月号)の第4報にてお知らせします)

3. 式次第

- 1) 認定トキシコロジスト総会
- 2) 新規名誉トキシコロジスト表彰式
- 3) 認定トキシコロジスト懇親会

4. 会 費

認定トキシコロジスト:事前3,000円(当日4,000円)

名誉トキシコロジスト:事前3,000円(当日4,000円)

2019年度新規名誉トキシコロジスト:無料

(該当の方には別途ご案内させていただきます)

参加者数により、当日入場を制限させていただくことがございます。事前申込にご協力よろしくお願いたします。

事前申込期間:2019年4月1日(月)

～6月14日(金)

5. 申込方法

参加希望の方は日本毒性学会事務局(jsothq@jsot.jp)まで電子メールにてお申込み(お名前、日本毒性学会会員番号、認定トキシコロジスト総会参加旨記載)の上、下記振込先までお振込みをお願いいたします。

郵便局に備え付けの郵便振替用紙をご利用いただくか、インターネットバンキング等をご利用ください。

インターネットバンキングにてお振込みの際には、振込人名義を会員番号、フルネーム(個人名)、「DJSOT ソウカイサンカヒ」と記載願います。

例:99999 ドクセイ タロウ DJSOT ソウカイサンカヒ

振込先

〈振替用紙・ゆうちょ銀行から〉

郵便振替口座 : 00150-9-426831

加入者名 : 一般社団法人日本毒性学会

〈他行から〉

銀行名 : ゆうちょ銀行

金融機関コード: 9900

店番 : 019

預金種目 : 当座

店名 : 〇一九店(ゼロイチキューウ店)

口座番号 : 0426831

第 22 回日本毒性学会基礎教育講習会日程

(場所：星薬科大学)

月 日	#	時 間	学 科 目	講 師
8 月 5 日 (月)		09:00 - 09:10	オリエンテーション	基礎講習会小委員会 委員長
	1-1 (1:15)	09:10 - 10:25	毒性学とは	和久井 信 講師 (麻布大学 獣医学部)
	1-2 (1:30)	10:35 - 12:05	毒性発現機序	吉成 浩一 講師 (静岡県立大学 薬学部)
	1-3 (2:00)	13:00 - 15:00	動態・代謝	小澤 正吾 講師 (岩手医科大学 薬学部)
	1-4 (0:45)	15:10 - 15:55	一般毒性試験, 実験動物	大久保 慎吾 講師 (武田薬品工業)
	1-5 (0:45)	16:05 - 16:50	血液毒性	平林 容子 講師 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター)
	1-6 (0:45)	17:00 - 17:45	免疫毒性	中村 和市 講師 (北里大学 獣医学部)
		18:00 - 19:30	交流会	
8 月 6 日 (火)	2-1 (1:30)	09:00 - 10:30	消化器毒性, 肝毒性	中野 (伊藤) 今日子 講師 (エーザイ 安全性研究部)
	2-2 (1:00)	10:40 - 11:40	腎・泌尿器毒性	村上 雄一 講師 (田辺三菱製薬 安全性研究所)
	2-3 (1:00)	11:50 - 12:50	呼吸器毒性	佐藤 洋 講師 (岩手大学 農学部)
	2-4 (1:00)	13:35 - 14:35	神経行動毒性, 運動器毒性, 感覚器毒性	義澤 克彦 講師 (武庫川女子大学 生活環境学部)
	2-5 (1:00)	14:45 - 15:45	循環器毒性, 安全性薬理	田保 充康 講師 (中外製薬 研究本部 安全性研究部)
	2-6 (1:00)	15:55 - 16:55	皮膚・粘膜毒性, 光毒性, 代替試験法	小島 肇夫 講師 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性予測評価部)
	2-7 (1:00)	17:05 - 18:05	生殖発生毒性, 生殖器毒性, 内分泌毒性	古川 賢 講師 (日産化学 生物科学研究所)
8 月 7 日 (水)	3-1 (1:00)	09:00 - 10:00	遺伝毒性	本間 正充 講師 (国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部)
	3-2 (1:00)	10:10 - 11:10	発がん性	魏 民 講師 (大阪市立大学大学院 医学研究科)
	3-3 (1:00)	11:20 - 12:20	環境毒性	石塚 真由美 講師 (北海道大学大学院 獣医学研究院)
	3-4 (0:45)	13:05 - 13:50	毒性オミクス	山田 弘 講師 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
	3-5 (1:15)	14:00 - 15:15	リスクアセスメント・ リスクマネジメント	小野 敦 講師 (岡山大学 医歯薬学総合研究科・薬学系)
	3-6 (0:45)	15:25 - 16:10	臨床中毒学	沼澤 聡 講師 (昭和大学 薬学部)
	3-7 (1:00)	16:20 - 17:20	統計学	渡邊 真弓 講師 (第一三共 安全性研究所)
		17:25	受講証明書授与	
資料のみ			化学物質の有害作用, 安全性評価・管理	斎藤 嘉朗 講師 (国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部)

第46回日本毒性学会学術年会のご案内（第5報）

（年会ホームページ：<http://jsot2019.jp/>）

1. 会期

2019年6月26日（水）～6月28日（金）

2. 会場

アスティとくしま

〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示 1-1

URL：<http://www.asty-tokushima.jp>

※徳島駅前からシャトルバスがでます

3. テーマ

生命を守り、持続可能な環境・社会・産業の基盤となる毒性学

4. 年会長

姫野誠一郎（徳島文理大学 薬学部）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

青木 康展（国立環境研究所）

石塚真由美（北海道大学）

上原 孝（岡山大学）

小椋 康光（千葉大学）

鍛冶 利幸（東京理科大学）

菅野 純（日本バイオアクセス研究センター）

北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）

小林 章男（日本たばこ産業（株））

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

篠澤 忠紘（武田薬品工業（株））

鈴木 睦（協和発酵キリン（株））

高橋 祐次（国立医薬品食品衛生研究所）

苗代 一郎（医薬品医療機器総合機構）

中西 剛（岐阜薬科大学）

中村 和希（北里大学）

奈良岡 準（アステラス製薬（株））

西田 基宏（生理学研究所 / 九州大学）

平林 容子（国立医薬品食品衛生研究所）

広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）

福井 英夫（Axcelead Drug Discovery Partners（株））

堀井 郁夫（ファイザー / 東京理科大学）

堀口 兵剛（北里大学）

松本 清（武田薬品工業（株））

山田 久陽（大正製薬（株））

横井 毅（名古屋大学）

吉田 緑（内閣府食品安全委員会）

吉成 浩一（静岡県立大学）

鰐淵 英機（大阪市立大学）

6. 特別企画（予定、敬称略、仮題、順不同）

1) 第17回市民公開セミナー

テーマ：「徳島の食と健康を考える」

日時：2019年6月29日（土）14:00～16:15

会場：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

2) 年会長招待講演

(1) “Role of amino acid metabolism and autophagy in chemical-induced abnormal lipid metabolism and fatty liver”

Byung-Hoon Lee

(College of Pharmacy, Seoul National University, Korea)

(2) “Association of chronic arsenic exposure with the risk of diabetes and characteristic features of asthma”

Md Khaled Hossain

(Department of Biochemistry and Molecular Biology, University of Rajshahi, Bangladesh)

3) 特別講演

(1) 「ヒト成熟肝細胞のリプログラミングによる肝前駆細胞の作成と毒性研究への応用」

落谷 孝広（東京医科大学）

(2) “Predicting Human Liver Toxicity Using In Vitro Measures: Can Past Failures Lead to Future Success?”

Leslie Z. Benet

(Department of Bioengineering and Therapeutic Sciences, Schools of Pharmacy and Medicine, University of California San Francisco, USA)

(3) “Safety Assessment of Central Nervous System Tumors in 2-year Rat Carcinogenicity Studies”

Aida Saccaan (Pfizer, Inc., Drug Safety Research and Development, San Diego, USA)

(4) 「OECD AOP プロジェクトにおける日本の対応」

小島 肇

(国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター)

(5) 日本免疫毒性学会合同講演

「金属アレルギー：金属イオンに対する免疫応答」

黒石 智誠

(東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔分子制御学分野)

4) 教育講演

- (1) 「日本にイノベーションのホットスポットを創るー湘南アイパークにおけるエコシステム構築の試み」
藤本 利夫
(武田薬品工業株式会社 湘南ヘルスイノベーションパーク)
- (2) 「毒性学に新しい視点をもたらす血管の毒性学」
鍛冶 利幸
(東京理科大学薬学部環境健康学研究室)
- (3) 「リスクアナリシスに基づいた食品あるいは水中の化学物質のリスク評価」
吉田 緑 (内閣府食品安全委員会)
- (4) 「環境医学におけるイオウ毒性学のニューパラダイム：イオウ医学生物学の黎明」
赤池 孝章
(東北大学大学院医学系研究科 環境医学分野)
- (5) 「フェーズゼロ反応：活性イオウ分子を利用した化学物質の不活性化というパラダイムシフト」
熊谷 嘉人
(筑波大学医学医療系 環境生物学分野)

5) シンポジウム (28 セッション)

- ・オルガノイドを用いた in vitro 毒性評価法の応用性
- ・医薬品事例紹介:承認前に開発中止になったファシグリファムの非臨床試験成績
- ・テクノロジーとの新結合がもたらす先端安全性研究
- ・医薬品開発における非臨床からの毒性・副作用予測 (その確からしさと限界について)
- ・AOP に基づく毒性作用機序
- ・医薬品の代替法によるヒト胎児毒性リスク評価戦略の最先端
- ・ネオニコチノイド系殺虫剤と農業の現状と今後の展望 ~毒性学・農学・行政の視点から~
- ・種差を取り巻く医薬品の開発事例と新たな展開
- ・ニューロジンの動態制御破綻からみた神経変性疾患研究の新展開
- ・化学発がんにおける遺伝毒性の関与を作用機序から考える：弱い遺伝毒性物質を中心として
- ・小児用医薬品開発における幼若動物を用いた安全性試験の現状と課題
- ・日本における食品のリスク評価は進化したか？
- ・生殖毒性研究・評価の新機軸 ~生殖器官形成から生殖毒性学への新発展~
- ・心毒性研究の最前線
- ・毒性エピゲノミクスの新潮流
- ・ノンカーボン素材ナノマテリアルの有害性評価の現状と課題

- ・米から摂取するカドミウムとヒ素の摂取実態と健康影響, その対策
- ・化学物質開発を促進するインシリコ毒性予測手法の開発
- ・発がん性評価法の最新の展望
- ・エピジェネティクス解析と人工知能による毒性オミクスの展開
- ・幹細胞分化から見る子どもの毒性学：シグナル毒性としての中樞神経影響の評価の現状
- ・DNA/RNA を標的とする医療技術の現状と安全性評価の考え方
- ・規制薬物の毒性, 動態と分析 up-to-date
- ・米国毒性学会合同シンポジウム:レギュラトリーの意志決定に対応する代替手法等の統合化戦略における日米の進展
- ・日本中毒学会合同シンポジウム:海産毒 リビジテッド
- ・日本免疫毒性学会合同シンポジウム:免疫毒性研究のポテンシャル
- ・日本毒性病理学会合同シンポジウム:毒性病理学会からのトピックス:新しい評価法への挑戦
- ・次世代研究セミナー:新技術・新分野が生み出す毒性学の新たな可能性

6) ワークショップ (7 セッション)

- ・非臨床安全性試験におけるマイクロサンプリングの実際 (GLP 毒性試験に導入した場合の課題・事例・Q & A)
- ・トランスレーショナルリサーチとしての臨床検査 ~臨床・非臨床における基礎知識~
- ・医薬品製造現場における安全性確保 ~トキシコロジストだからできる職業曝露限度値設定~
- ・金属 (類) の血管毒性
- ・大動物を用いた安全性評価の重要性
- ・新規ヒト肝細胞資源を用いた安全性評価の新展開
- ・データサイエンスと行動解析技術の融合と展望

7) キャリア形成支援プログラム

- ・トキシコロジストの活躍:キャリアパスのボーダーレス化を知る

7. 一般演題

- 1) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては, 発表と討論の時間を合わせて 10 ~ 15 分程度を予定しています。詳細は, 演題申込数を考慮の上, 4 月中に主発表者へ E-mail にてお知らせいたします。発表方法は PC プレゼンテーション (プロジェクター 1 面映写) のみです。ポスター発表は, 毎日貼替えてポスター展示を行い, 途中に質疑応答時間を設けます。

2) 優秀研究発表賞

2019年3月31日時点で35歳以下のポスター発表（筆頭著者）の方を対象とします。

応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を第1日目（6月26日（水））に行ってください。受賞者の発表は、第2日目（6月27日（木））に行います。授賞式は、懇親会（受賞者本人は無料招待）において行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

3) 学生ポスター発表賞

学術年会（2019年6月26日（水））の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象とします。

審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第1日目（6月26日（水））に掲示し、受賞者の発表は、第2日目（6月27日（木））に行います。授賞式は、懇親会（受賞者本人は無料招待）において行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

8. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日：

2019年5月1日（水）

1) 参加費

※ 学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と懇親会費は「課税（消費税込）」となります。

	事前登録	当日受付
会 員	11,000 円	13,000 円
学生会員	3,000 円	4,000 円
* 関連学会会員	12,000 円	14,000 円
非 会 員	14,000 円	16,000 円
懇親会（一般）	9,000 円	11,000 円
懇親会（学生）	4,000 円	5,000 円

*は次の学会会員の方です。（50音順）

共催：日本中毒学会

日本毒性病理学会

日本免疫毒性学会

日本薬理学会

米国 SOT (Society of Toxicology)

協賛：日本安全性薬理研究会

日本医薬品情報学会

日本衛生学会

日本環境変異原学会

日本産業衛生学会

日本実験動物学会

日本獣医学会

日本先天異常学会

日本動物実験代替法学会

環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）

日本薬学会

日本薬物動態学会

2) お支払い方法

- ・クレジットカード
- ・コンビニエンスストア

※決済等の詳細については、年会ホームページをご確認下さい。

9. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2019年6月27日（木）18：45～（予定）

場所：ホテルクレメント徳島 4F「クレメントホール」

URL：<https://www.jrclement.co.jp/tokushima/>

※年会会場からシャトルバスがでます

10. 展示、ランチョンセミナーなどの募集

展示、ランチョンセミナー、広告掲載を募集しております。詳細については年会ホームページをご覧ください。

年会ホームページ：<http://jsot2019.jp/>

11. 宿泊予約

年会ホームページからの予約をお願いします。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ：<http://jsot2019.jp/>

宿泊予約締切日：

2019年5月24日（金）17：00

12. 託児所

アスティとくしまに「こども室」という託児所機能があり、学会参加者も無料で利用できます。

利用の申込みについては、直接「こども室」にお問い合わせ下さい（電話：088-655-4638）

注1) 利用可能時間は、6/26～6/28のみ

8：30～18：00となります。

注 2) 年齢, 人数, その他の詳細な条件を伝える
必要があります。

注 3) 保育士の人数に限りがありますので, 先着順
となります。

13. 年会事務局

〒 770-8514 徳島県徳島市山城町西浜傍示 180

徳島文理大学薬学部衛生化学講座

事務局長：角 大悟

事務局次長：藤代 瞳

TEL：088-602-8459 or 8460 FAX：088-655-3051

E-mail：secretariat@jsot2019.jp

第 45 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 45 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 45 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

その他のお知らせ

2019 年度日本環境変異原学会公開シンポジウム

日本環境変異原学会では、例年、公開シンポジウムを開催しています。

今回の公開シンポジウムは、平成から新元号となり開催する最初の公開シンポジウムとなります。がんなどのゲノムの異常・不安定性に起因する疾患は、遺伝毒性に関わる広範な知識を統合することでより理解が進むものと考えます。新進気鋭の若手研究者を含めた今回のシンポジウムが、生活環境からゲノムを護る環境変異原研究の新たな一歩になることを期待します。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時 2019年6月8日(土) 9:50～16:45
場所 国立がん研究センター 新研究棟 大会議室
 (https://www.ncc.go.jp/jp/about/access/tsukiji.html)
世話人 杉山 圭一 (国立医薬品食品衛生研究所)
 関本 征史 (麻布大学)
 堀端 克良 (国立医薬品食品衛生研究所)

プログラム

9:50～ 開会の辞 本間 正充
 (日本環境変異原学会会長/国立医薬品食品衛生研究所)
 9:55～ はじめに 杉山 圭一
 (国立医薬品食品衛生研究所)

第一部

10:00～ 環境中から検出されるエピジェネティック変異原物質
 (国立医薬品食品衛生研究所 杉山 圭一)
 10:50～ 発がん物質投与早期に生じるエピジェネティック変動と発がんへの役割
 (東京農工大学 渋谷 淳)

第二部

13:15～ バイオリソースを利用したヒト疾患解析～メタボローム解析からみる生活環境・脳内環境とアルツハイマー病
 (東京医科歯科大学 永田 有希)
 14:00～ テルペノイドに着目したがん予防物質の探索研究
 (京都薬科大学 松本 崇宏)

第三部

15:00～ Ras トランスジェニックラットを用いた発がん研究
 (名古屋市立大学 深町 勝巳)
 15:50～ 異物代謝酵素ノックアウトマウスを用いた産業化学物質のDNA損傷性解析
 (労働安全衛生総合研究所 王 瑞生)

16:40～ おわりに 関本 征史 (麻布大学)

注:講演タイトル, プログラムは変更の可能性があります。

問合せ先 252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71
 麻布大学生命・環境科学部 関本 征史

第59回日本臨床化学会年次学術集会

学術集会長 眞野 成康 (東北大学病院 教授・薬剤部長)
副学術集会長 藤巻 慎一 (東北大学病院 検査部・臨床検査技師長)

会期 2019年9月27日(金)～29日(日)
会場 仙台国際センター

(〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山)
学会ホームページ <http://site2.convention.co.jp/jsc59/>

テーマ 「未来型医療」を創造する臨床化学

特別講演1

前川 真人 先生
 (浜松医科大学 医学部 臨床検査医学講座)
 「臨床化学の進む道」

特別講演2

出澤 真理 先生
 (東北大学 大学院医学系研究科 細胞組織学分野)
 「Muse 細胞のもたらす医療ルネッサンスの可能性」

参加費

一般参加者: 10,000 円
 学生 (大学院生・専門学校生・短期大学生・学部生):
 3,000 円 (学生証提示)

演題募集

全てオンライン登録のみとなります。
 一般演題募集期間: 2019年2月5日(火)
 ～2019年4月25日(木)を予定
 ポスターによる発表としますが、特に優秀と思われる演題について口演をお願いする予定です。

年次学術集会懇親会

9月28日(土) 19時00分～
会場: ホテルメトロポリタン仙台
 (〒980-8477 宮城県仙台市青葉区中央 1-1-1)
参加費: 一般参加者 3,000 円, 学生 1,000 円

問合せ先

第59回日本臨床化学会年次学術集会 運営事務局
 日本コンベンションサービス株式会社東北支社
 〒980-0824 宮城県仙台市青葉区支倉町 4-34 丸金ビル 6 階
 TEL: 022-722-1311 FAX: 022-722-1178
 Mail: jsc59@convention.co.jp

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

特に重要な変更があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男記念賞（学術貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

マイクロバイオーム研究の 受託業務



マイクロバイオームを持たない無菌動物、単離菌または複数の既知の菌株を定着させたノトバイオート動物や細菌叢を定着させた動物を一定期間飼育環境を維持するためにはビニールアイソレータ(VI)を使用することが最適です。当社では長年の経験で得た無菌動物生産技術をもとにマイクロバイオームの研究支援を行ないます。

● 無菌動物

無菌マウスを常時生産しております。

MCH(ICR) [Gf]・C57BL/6N [Gf]
BALB/cA [Gf]・IQI [Gf]

● ノトバイオート作製

無菌マウスに単独あるいは複数の腸内細菌を移植します。必要に応じて定着を確認します。疾患モデルマウスの腸内細菌や、ヒト糞便の移植も可能です。また、お手持ちの遺伝子改変マウスを無菌化した後、特定の腸内細菌を移植し管理することも可能です。

● ノトバイオート化マウスを使った受託試験

シングルノトバイオートマウスや、ヒト糞便移植叢を移植したマウスを使った試験を受託致します。各種データ採取についても、お問合せください。実施場所は、川崎市または富士宮市の当社施設(実験室を併設)を使用します。

※ヒト糞便移植実験は、川崎施設を利用。

● 研究を支える動物管理技術

In Vivoマイクロバイオーム研究では、微生物学的制御が可能なビニールアイソレータ(VI)を使用します。これはヒトから動物への感染の防御とともに、移植された細菌からのヒトへの防御にもつながります。また、長期に亘る腸内細菌叢の維持が可能です。

オプション

- 糞便のT-RFLP解析による腸内細菌叢解析、菌叢比較解析、有機酸分析、腐敗産物分析、アンモニア分析、ph、微生物定量分析(リアルタイムPCR法)
- 移植細菌の定着確認(PCR)
- 血液生化学データ、病理組織作成、採材
- 薬物の経時的投与、定期糞便採取
- Tg、KOマウスの無菌化
- ヒト糞便移植
- 特殊飼料給餌試験

※移植細菌(叢)は研究者側にてご用意ください。

 **日本クリア株式会社**

<http://www.CLEA-Japan.com>

受注センター TEL.03-5704-7123 FAX.03-3792-2368

東京AD部 TEL.03-5704-7050 FAX.03-3792-2032
大阪AD部 TEL.06-4861-7101 FAX.06-4861-7108

仙台出張所 TEL.022-352-4417 FAX.022-352-4419
札幌出張所 TEL.011-631-2725 FAX.011-644-9209

医薬品開発をトータルにサポート

基礎検討試験

前臨床試験

臨床試験

薬物動態試験

- High Quality -

高品質なデータの提供

- Globalization -

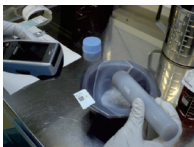
グローバルな事業展開

- Prompt Response -

迅速なサービスの提供

充実した支援体制

- AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）認証
- FDA IND/NDA電子化申請対応（CDISC SEND）
- バーコードによるミス防止システム
- 世界中どこからでも閲覧可能



Leica Aperio AT2



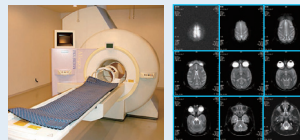
カニクイザル眼球HE染色

最新機種の導入

- Erenna Immunoassay System(EMD Millipore)



- MRI



Siemens Allegra 3.0T

カニクイザル頭部 (T2WI)

- qPCR



ABI 7500 Fast

お問い合わせ先

株式会社新日本科学

<https://www.snbl.co.jp/>

Email: info@snbl.co.jp

TEL: 03-5565-6140

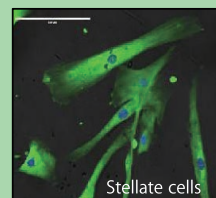
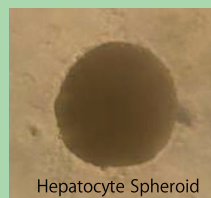
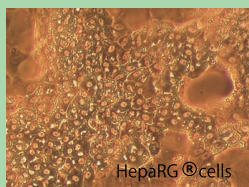


HepaRG®・初代肝細胞



- HepaRG® 凍結バイアル
- HepaRG® 増殖培養キット
- HepaRG® プレート播種タイプ
- CYP3A4G/7R HepaRG®
 - CYP3A4の発現を緑色蛍光で検出可能
 - 鳥取大学が開発 (WO2014061829A1; 薬物代謝酵素誘導および細胞毒性の評価方法、ならびにそのためのベクターおよび細胞)

- ヒト凍結肝細胞
 - 接着 / 非接着 / スフェロイド培養用
- アニマル凍結肝細胞
 - 動物種：マウス、ラット、イヌ、サル
- ヒト凍結非実質肝細胞、星細胞等
- ヒト非凍結肝細胞 (プレート播種タイプ)



受託試験

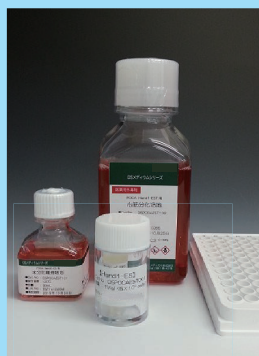
- 薬物相互作用評価試験
- 肝毒性評価試験
- 腎毒性評価試験



発生毒性評価キット POCA® Hand1-EST

<製品概要>

POCA® Hand1*-ESTは、心筋分化関連遺伝子のモニターにより発生毒性(催奇形性)をin vitroで評価するEST(Embryonic Stem Cell Test)キットです。 *Hand1：胎生期の左心室、右心室に優位に発現する発生に関与する転写因子



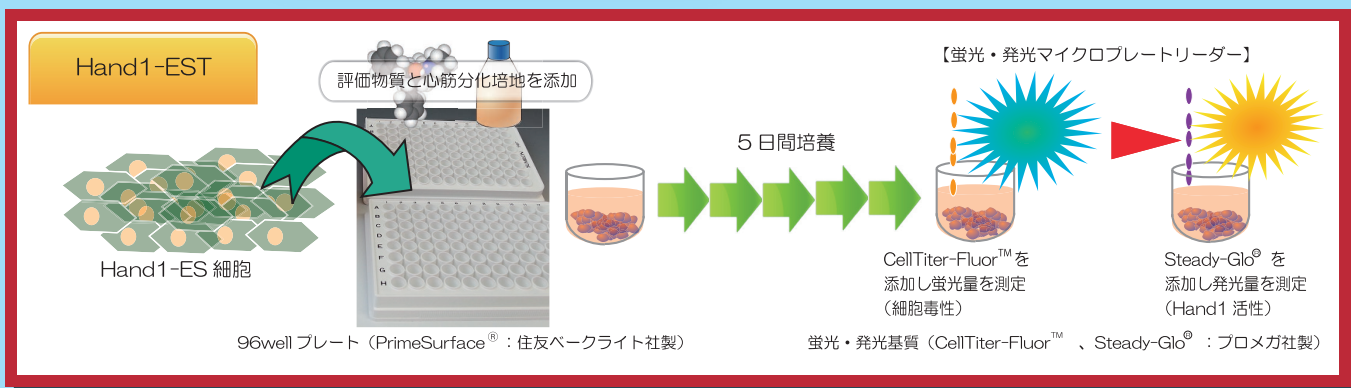
【製品特長】

- ✓ 蛍光・発光法による定量的な毒性評価が可能
- ✓ 従来のEST (Embryonic Stem Cell Test) 試験と比較し簡便
- ✓ 化合物のスクリーニング試験に最適

【キット構成】

- Hand1-ES細胞 (1 vial)
 - 末分化維持培地 (30mL×1)
 - 心筋分化培地 (200mL×1)
 - 解析ソフト
- ※写真のホワイトプレートはキットに含まれません。

項目	EST 法 (Original)	Hand1-EST
試験日数	10日間	5日間
分化評価	拍動(目視)	Luciferase 活性
必要化合物	500mg 以上	5 ~ 50mg
測定装置	顕微鏡	蛍光・発光リーダー
処理能力	低	高



●本キットご使用に関しましては別途ライセンス契約が必要です。詳細につきましてはお問い合わせください。
 ●本キット中の Hand1-ES 細胞のご使用に際し Promega 社のライセンスプログラムをご確認頂く必要があります。ライセンスプログラムに関しては www.promega.co.jp/license/ をご覧ください。

細胞、組織、微生物株、培養試薬、研究用試薬等を取り扱っております。



株式会社 ケーエーシー

<お問い合わせ先>
 TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748
 E-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

会社HP: <http://www.kacnet.co.jp/>
 細胞検索サイト「細胞.jp」: <http://www.saibou.jp/>

細胞.jp 製品の在庫・価格等を検索可能!

SLCの実験動物



マウス

●アウトブリード

Slc : ddY
N/GS

●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NCrSlc・C57BL/6JmsSlc
C3H/HeSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlC
A/JmsSlc
AKR/NSlC
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlC
C3H/HeNSlC
C3H/HeYokSlc

●B10コンジュニク

129x1/SvJmsSlc
C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc
B10.D2/nSnSlc・B10.MBR/Slc
B10.QBR/SxSlc・B10.S/SgSlc

●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)

●ヌードマウス(ミュタント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1nu*)
KSN/Slc(*Foxn1nu*)

●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*gld*(自己免疫疾患-*Fas1^{gld}*)
C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas1^{lpr}*)
C57BL/6JSlc-*gld*(自己免疫疾患-*Fas1^{gld}*)
C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas1^{lpr}*)
MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas1^{lpr}*)
NZB/NSlC(自己免疫疾患)

* NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)
CTS/Shi(免疫不全・白内障)
* WBB6F1/Kiit-Kiit^W/Kiit^W/Slc(肥満細胞欠損血・Kiit^W/Kiit^W)
* WBB6F1/Kiit-Kiit^W/Kiit^W/Slc(肥満細胞欠損血・Kiit^W/Kiit^W)
NC/Nga(皮膚炎)
☆ Hos:HR-1(ヘアレスマウス)
☆ HRM2(メラニン保有ヘアレスマウス)
SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫・SAM系対照動物)
SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)
SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)
SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)
SAMP10/TaSlc(脳萎縮を伴う学習・記憶障害)
AKITA/Slc(糖尿病)
☆ TSOD(2型糖尿病)
C57BL/6JHamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病-*Lepr^{ob}*)
☆ C57BLKS/Jlar-*Lepr^{ob}*+*Lepr^{ob}*(肥満・2型糖尿病-*Lepr^{ob}*)
☆ NSY/Hos(2型糖尿病)
C57BL/6JHamSlc-A¹/+(肥満)
HIGA/NscSlc(IgA腎症)
C.KOR/StmSlc-*Traf3ip2^{shn}*(アトピー性皮膚炎マウス-*Traf3ip2^{shn}*)
B6.KOR/StmSlc-*Traf3ip2^{shn}*(アトピー性皮膚炎マウス-*Traf3ip2^{shn}*)
A.KOR/StmSlc-*Traf3ip2^{shn}*(アトピー性皮膚炎マウス-*Traf3ip2^{shn}*)
AK.KOR/StmSlc-*Traf3ip2^{shn}*(アトピー性皮膚炎マウス-*Traf3ip2^{shn}*)
(NZW × BXSB)/F1/Slc(血小板減少性紫斑病)
C57BL/6HamSlc-*bg/bg*(NK細胞活性低下)

ラット

●アウトブリード

Slc : SD
Slc : Wistar
Slc : Wistar/ST
Hos : Donryu

☆ lar : Wistar (Wistar-Imamichi)

☆ lar : Long-Evans

☆ lar : Copenhagen (前立腺腫瘍継代)

●インブリード

F344/NSlC
WKAH/HkmSlc
BN/SsNSlC
DA/Slc(薬物誘導性関節炎)

LEW/SsNSlC(薬物誘導性関節炎)
ACI/NSlC
PVG/SeaSlc

●疾患モデル

SHR/Izm(高血圧)
SHRSP/Izm(脳卒中)
WKY/Izm(SHR/Izmのコントロール)
SHRSP5/Dmcr(NASHモデル)
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)
DahS.Z-*Lepr^{ob}*/Slc
KDP(1型糖尿病-*Cblb*)
GK/Slc(2型糖尿病)
WBN/KobSlc(高血糖好発)
WBN/KobSlc-*fa/fa*(高血糖好発-*Lepr^{ob}*)
SHR/NDmcr-*cp/cp*(肥満・糖尿・高血圧-*Lepr^{ob}*)
SHRSP/IDmcr-*fa/fa*(肥満・高血圧・脳血管障害-*Lepr^{ob}*)
Slc:Zucker-*fa/fa*(肥満-*Lepr^{ob}*)
☆ Hos:ZFDM-*Lepr^{ob}*(糖尿・肥満)
HWY/Slc(ヘアレスラット)
F344/NSlC-*Apc^{mt/mt}*(大腸癌易誘発)
EHBR/EisSlc(高ビリルビン血症)
Gunn/Slc-*jjj*(高ビリルビン血症)
NAR/Slc(無アルブミン症)
SDR(球小体神経ラット)
Slc:WsRC-Ws/Ws(肥満細胞欠損血・c-kit異常-*Kiit^W*)
☆ DA/Slc-*bg/bg*(NK細胞機能低下)
☆ OM/NSlC(栄養関係・腎障害)
☆ FH/HamSlc(脳内セロトニン系の機能不全)

モルモット/ウサギ/ハムスター/スナネズミ

●アウトブリード モルモット

Slc : Hartley
Hos : Weiser-Maples(メラニン保有)

●インブリード モルモット

* Strain2/Slc
* Strain13/Slc

●アウトブリードウサギ

Slc : JW/CSK
Slc : NZW
* Slc : JWF-NIBS(ヘアレス)

●ハムスター

Slc : Syrian
* J2N-k(心筋症モデル)
* J2N-n(J2N-kのコントロール)

●スナネズミ

MON/Jms/GbsSlc

無菌動物

F344/NSlC[GF]

遺伝子改変動物

●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)
C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpt delta*)

●ヌードマウス

C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)
F344/NSlC-Tg(*gpt delta*)
Slc:WistarHannover/Rcc-Tg(*gpt delta*)

conventional動物

●ビーグル犬

☆国内繁殖生産(一財)動物繁殖研究所)

●カニクイザル

☆ベトナム繁殖生産ザル(VANNY)

●ミニブタ

☆国内繁殖生産
(一財)日生研-NPO法人医用ミニブタ研究所)

●マイクロミニブタ

☆国内繁殖生産(富士マイクラ)

●フェレット

国内繁殖生産(中伊豆支所)

*印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社
〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町3371-8
TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)
関西エリア (053)486-3157(代)
九州エリア (0942)41-1656(代)

一般社団法人 日本毒性学会

【名誉会員】

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	高橋 道人	榎本 眞
小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫	黒川 雄二
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄			

【功労会員】

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	田中 悟	大沢 基保	今井 清
降矢 強	玄番 宗一	唐木 英明	飯家 公夫
暮部 勝	野村 護	牧 栄二	山添 康
上野 光一	三森 国敏	佐神 文郎	遠山 千春

【賛助会員】

旭化成ファーマ(株)	味の素製薬(株)	(五十音順)
あすか製薬(株)	アステラス製薬(株)	
(株)安評センター	(株)イナリサーチ	
エーザイ(株)	(株)LSIメディアエンス	
大塚製薬(株)	小野薬品工業(株)	
杏林製薬(株)	協和発酵キリン(株)	
興和(株)	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社	
(株)三和化学研究所	塩野義製薬(株)	
昭和電工株式会社	(株)新日本科学	
(一財)生物科学安全研究所	ゼリア新薬工業(株)	
千寿製薬株式会社	第一三共(株)	
大正製薬(株)	大日本住友製薬(株)	
大鵬薬品工業(株)	武田薬品工業(株)	
田辺三菱製薬(株)	中外製薬(株)	
帝人ファーマ(株)	(株)DIMS 医科学研究所	
トーアエイヨー(株)	東レ(株)	
(一社)日本化学工業協会	日本香料工業会	
日本新薬(株)	日本たばこ産業(株)	
ファイザー(株)	(株)ボゾリサーチセンター	
Meiji Seika ファルマ(株)	持田製薬(株)	
ライオン(株)		

【役員】(2017～2018年度)

理事長	熊谷 嘉人	小川久美子	小椋 康光
理事	青木 豊彦	菅野 純	北嶋 聡
	鍛冶 利幸	鈴木 睦	高崎 渉
	小林 章男	苗代 一郎	永沼 章
	角崎 英志	福井 英夫	藤原 泰之
	広瀬 明彦	宮脇 出	山田 久陽
	三浦 伸彦		
	吉成 浩一		
監事	中村 和市		
	姫野誠一郎		

【学術年会長】

第46回 (2019年) 姫野誠一郎
 第47回 (2020年) 広瀬 明彦
 第48回 (2021年) 福井 英夫

【委員会】(2018～2019年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

●総務委員会
 広瀬 明彦 (委員長)
 青木 豊彦 小椋 康光 鍛冶 利幸
 熊谷 嘉人 鈴木 睦 永沼 章

◆連携小委員会
 菅野 純 (委員長)
 小川久美子 北嶋 聡 中村 和市
 広瀬 明彦 山田 久陽
 佐藤 雅彦 (委員長)
 小林 章男 苗代 一郎 藤原 泰之
 三浦 伸彦
 広瀬 明彦 (委員長)

◆名誉会員および功労会員
 選考小委員会
 ◆指針値検討小委員会

●財務委員会
 ●編集委員会
 青木 豊彦 (委員長)
 小川久美子 福井 英夫 藤原 泰之
 鍛冶 利幸 (委員長)
 青木 康展 阿部(富澤)香織 有蘭 幸司
 市原 学 熊谷 嘉人 佐藤 雅彦
 渋谷 淳 神野 透人 鈴木 雅実
 曾根 秀子 中川 一平 永沼 章
 中村 和市 沼澤 聡 福島 民雄
 藤原 泰之 務台 衛 山田 久陽
 山手 丈至 山本 千夏 吉成 浩一
 鍛冶 利幸 (委員長)
 永沼 章 (委員長)
 永沼 章 (委員長)
 中川 一平 (副委員長以下非公開)
 鈴木 睦 (委員長)
 高崎 渉 古川 賢
 鈴木 睦 (委員長)
 五十嵐勝秀 石塚真由美 於勢 佳子
 真田 尚和 姫野誠一郎 義澤 克彦
 高崎 渉 (委員長)
 小野寺博志 (副委員長)
 朝倉 省二 桑原 正貴 橋本 清弘
 古川 賢 和久井 信
 古川 賢 (委員長)
 (副委員長以下非公開)
 小椋 康光 (委員長)
 永沼 章 (委員長)
 (委員非公開)
 小椋 康光 (委員長)
 (委員非公開)
 清水 俊敦 (委員長)
 (委員非公開)
 北嶋 聡 (委員長)
 (委員非公開)
 山田 久陽 (委員長)
 天野 幸紀 石塚真由美 高崎 渉
 高橋 祐次 藤原 泰之 吉成 浩一
 久田 茂 (委員長)
 児玉 晃孝 (副委員長)
 橋本 愛

★その他関連の委員会
 ○IUTOX President 菅野 純
 ○ASIATOX 担当 佐藤 雅彦

2019年 4月1日 印刷

2019年 4月1日 発行

発行人 熊谷 嘉人

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsothq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161